

令和元年度 中央区立京橋築地小学校 自己評価報告書

学校名：中央区立京橋築地小学校 所在地：中央区築地2-13-1

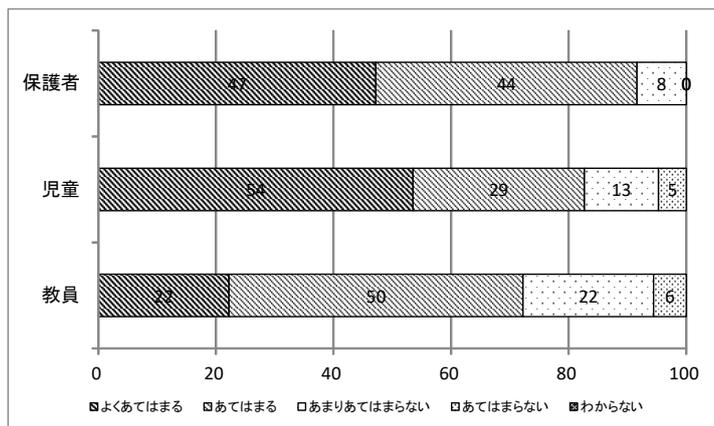
校長名：平山尚彦

児童数：253名 学級数：10学級 教員数：22名 職員数：3名

1 重点目標の達成状況及び取組状況

※アンケート回答数 保護者：133 児童(4～6年)： 教員：20

重点目標1：丈夫な体とたくましい心を育てる

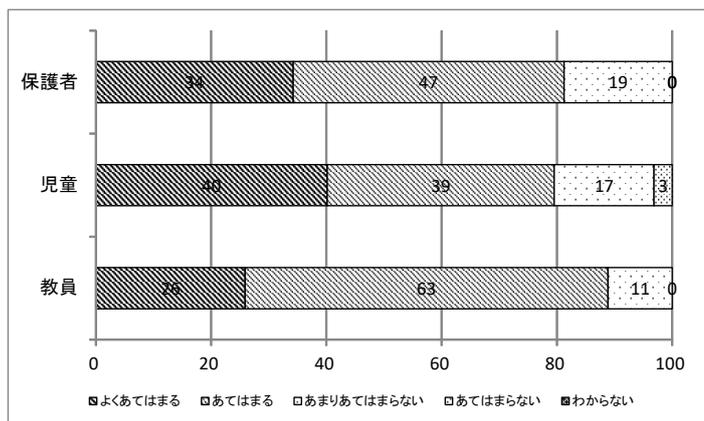


保護者アンケートでは肯定的評価が91%と昨年度より2ポイントほど上がり、「あまりあてはまらない」が8%、「あてはまらない」「わからない」の回答はありませんでした。ほぼ肯定的に捉えていただいています。このグラフには表れていませんが、泳力に関する肯定的評価が一番高くなっています。

持久走に関しては、各学期、持久走旬間を設定し取り組んできました。一層児童の意欲を向上させる取組の必要性を感じており、来年度は、

学習カードの改善を図っていきます。運動会の実施に関しましては、ここ数年練習期間中から当日にかけて、熱中症の指数が高くなる日が多く、状況に応じた変更をしてみました。アンケートで暑さ対策へのご意見もいただいております。9月は高温であることを前提に、児童の健康と安全を最優先した計画の見直しをしてみました。

重点目標2：言葉の力を育てる



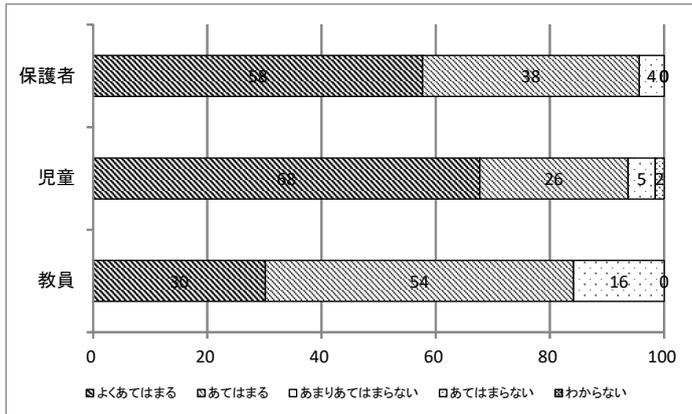
アンケートの肯定的評価は保護者81%、児童79%で、昨年度に比べ保護者は1ポイント下がり、児童は8ポイント下がりました。この重点目標2については、言葉の力が身についたかという点において課題を分析し、改善を図っていく最重要項目であると考えています。

一方、いつもご協力をいただいている保護者の方による読み聞かせの会は大変有意義な会であると認識しています。高学年から低学年への児童間の読み聞かせ会も、本への興味・関心を

高めるだけでなく、学年を越えた交流の場として人間関係を育てる場ともなっています。

年4回の詩の集会を柱とした詩の創作活動や音読発表への取組も、児童の想像力や表現力を育てるよい機会となっておりますが、児童の評価からは課題も捉えられ、意欲や達成感を高めるための取組内容を工夫していく必要があります。

重点目標3：互いに認め合い、思いやる人間関係を育てる



アンケートの肯定的評価は保護者96%、児童94%で昨年度と比べ、保護者は5ポイント上がり、児童は変わりありませんでした。縦割り班活動などの異年齢間の交流活動の継続や、保護者・地域の皆様による環境が、上級生が下級生に優しく世話をするという、本校のよき文化をつくっていると考えています。反面、休み時間等において、異年齢間の小さなトラブルも見られます。全職員で児童の様子をしっかり受け止め、ていねいな指導を継続していきます。

2 重点目標以外の達成状況及び取組状況

昨年度の保護者アンケートでは、全18項目中、5項目で肯定的評価が90%を下回りましたが、今年度は全て90%を超えることができました。その中で課題となることは「よくあてはまる」の回答が50%前後の「通知表等を通しての適切な評価」「道德教育」「人権を尊重する姿勢」「コンピュータや図書室の十分な活用」と捉えています。

通知表の評価につきましては、新学習指導要領の完全実施に伴い、評価項目の見直しをしていきます。道德性、人権の尊重につきましては、引き続き授業や日常の指導のほか、トラブル等への適切な対応の積み重ねをしていきます。コンピュータの活用に関しては、ICT支援員の活用もしながらタブレット端末の意識的な活用を図りましたが、さらに発達段階に応じた計画的な活用が課題であると考えています。

児童アンケートでは、「先生は悩みなどについて話しやすい」「学校の約束を守っている」の項目が、他に比べ低い傾向があります。児童に寄り添い、児童の思いや願いを把握し、児童が充実した学校生活を送れるよう、指導内容や方法の向上に努めてまいります。

アンケート自由記述欄では多くの励ましや肯定的な意見をいただいた一方で改善意見も頂戴しました。いただいた意見を真摯に受けとめながら、児童の立場に立って何が大切かを念頭に、できる限りの改善策を考えてまいります。

3 今後の改善方策

アンケート結果を踏まえ、今後の改善のための方策として、以下のことに取り組んでいきます。

○学力の確実な定着のために

基本的な学力の定着と研究主題である「主体的に考え、表現する児童の育成」を授業改善の柱として全教員で取り組むほか、ICT機器を活用した授業の充実、放課後補習の実施など、引き続き個に応じた指導の充実に努め、学力の確実な定着を図ります。

○体力と技能の向上のために

児童の健康と安全に十分配慮した指導計画の改善、オリンピック・パラリンピックの開催の機運の醸成を踏まえ、アスリート等の招聘などを通して、授業や行事への取組など、指導内容と方法の充実に努め、児童の意欲を引き出し、体力と技能のさらなる向上を図ります。

○児童の豊かな心を育て、よりよい人間関係を育むために

児童の人権を意識した教育環境を整えて行きます。授業においては道德の授業改善のほか、各教科等で児童同士が話し合う場や自分の考えを発表する場面を意図的に取り入れ、認め合える関係の向上を図るとともに、全職員が一丸となって情報共有と共通理解を行い、保護者や関係機関と連携しながら、児童に寄り添った指導と対応で、いじめ等の未然防止と早期解決に努めます。